

2011 年度

(2010 年 4 月～2011 年 3 月)

エコアクション 21

環境活動レポート

サードウェーブグループ

2011 年 6 月 9 日

目 次

1. ご挨拶	1
2. 環境方針	2
3. 環境経営システムの運営体制	3
3. 1 事業基礎情報	5
3. 2 事業活動の概要	10
4. 環境目標とその実績・評価	12
4. 1 環境負荷に対する目標とその実績・評価	12
4. 2 環境取組に対する目標とその実績・評価	28
5. 環境関連法規の遵守状況	39
6. 代表者による総合評価と見直し	41

1. ご挨拶

サードウェーブグループでは、これまで地球環境を配慮してエネルギーの節減や中古事業の開発など、事業活動において環境への取り組みを積極的におこなって参りました。また 2010 年より「環境活動レポート」を作成して、それらの取り組みと効果を明確にして参りました。

今後も引き続き、環境負荷の軽減につながる活動をグループの全従業員が一丸となって実行いたします。

2011 年 4 月

サードウェーブグループ

代表取締役社長 尾崎 健介

2. 環境方針

< 基本理念 >

サードウェーブグループは、環境問題に対しての企業責任を認識し、地球環境に配慮した事業活動に努めます。

< 環境方針 >

サードウェーブグループは、地球環境保全が企業の重要課題であることを認識し、環境マネジメント活動を経営の最重要課題の一つに位置づけます。株式会社サードウェーブホールディングスにおけるグループ会社の支援事業を通じて、全ての活動における環境負荷を低減するため、以下の方針に基づいた環境マネジメント活動を推進し、環境対策面で模範となれる企業を目指します。

1. 当社の活動及びそれによる環境影響を常に認識し、環境負荷の低減を推進するとともに、環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。
2. 環境活動レポートに定める方針・目的に関して、定期的な見直しを実施し、常に適切な方針・目標の設定に努めます。
3. 環境に関する法令、条例、協定その他要求事項を遵守します。
4. 当社の活動による環境への影響のうち、以下の項目を管理重点テーマとして取り組みを推進します。
 - ① 省エネルギー推進による二酸化炭素排出量の削減
 - ② 水資源の使用量の削減
 - ③ 環境に配慮した製品提供
 - ④ 事業活動より排出される廃棄物の削減、リサイクルの推進
 - ⑤ グリーン調達の促進
5. 社内外に対して本方針の開示を図るとともに、本方針に基づいて全従業員に対する環境教育、人材育成を積極的かつ継続的に行うことで、環境活動の定着、向上に努めます。

制定日：2009年10月1日

改定日：2010年9月1日

サードウェーブグループ

代表取締役社長 尾崎 健介

3. 環境経営システムの運営体制

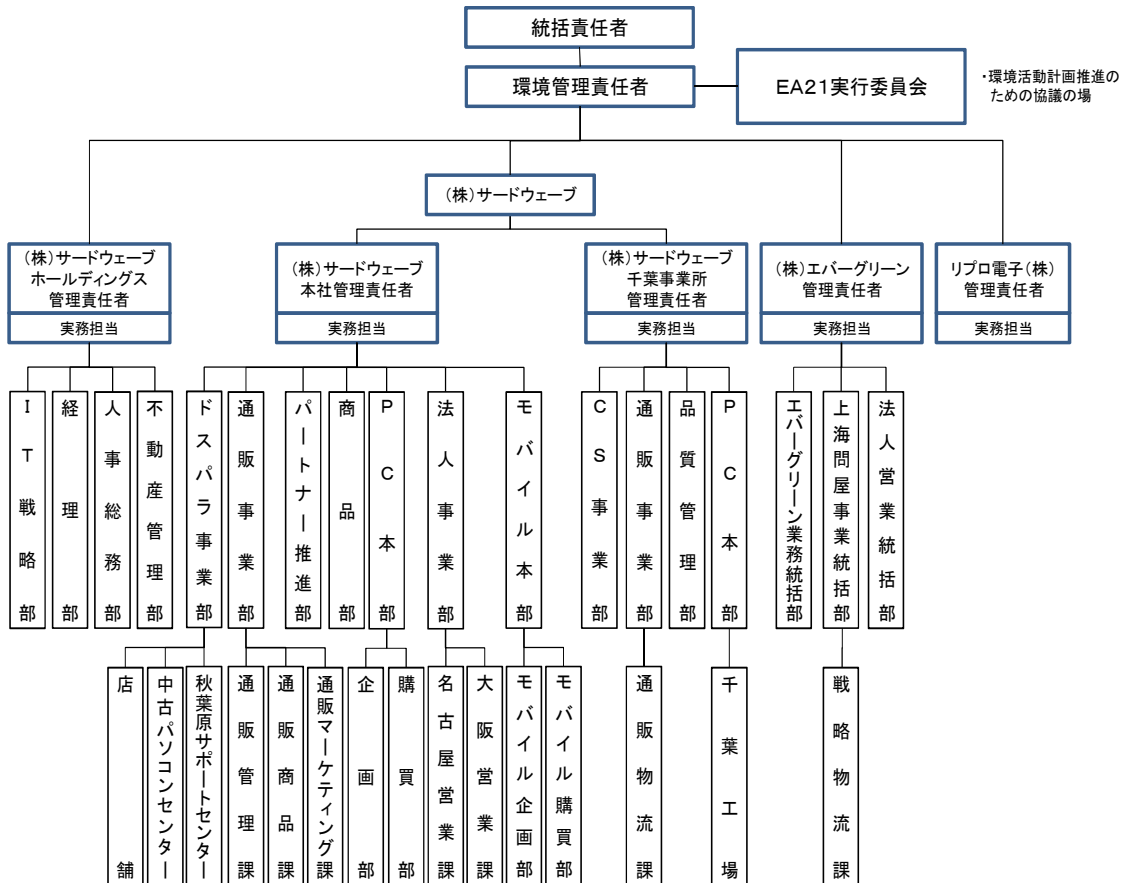


図 3.1 環境経営システムの運営体制

※全組織・全活動を対象とする。

表 3.1 運営体制の役割分担

職名	役割
統括責任者 (代表取締役社長)	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境管理責任者及びその他の責任者を任命する ● EA21 実行委員会の開催を決定する ● 環境方針を決定する ● エコアクション 21 の総合評価と方針の見直しを行う ● 関係法令遵守に関し、責任を持つ
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ● エコアクション 21 に係る事項の決定及び報告の場所である、EA21 実行委員会の運営を行う ● エコアクション 21 の構築に向けて、各サイトの責任者及び EA21 事務局を指揮し、エコアクション 21 に係る全ての事項を総括する
管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ● 担当サイトの環境負荷削減に責任を持ち、環境活動計画の運用を周知・徹底する ● EA21 実行委員会に参加し、担当サイトの取り組み状況について報告し、環境目標の達成に必要な提案を行う。
EA21 実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ● エコアクション 21 に係る事項の報告及び決定の場とする ● 代表取締役社長、管理責任者、EA21 事務局、TWH D 管理責任者と実務担当で構成し、1 ヶ月に 1 回環境管理責任者が召集する。なお、環境管理責任者が必要と判断した者に関しては、出席することが可能とする。
EA21 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ● EA21 事務局として環境管理責任者を補佐し、エコアクション 21 に係る事項の実務を中心的に行う。

3. 1 事業基礎情報

事業所名 : 株式会社サードウェーブホールディングス
代表者 : 代表取締役社長 尾崎 健介
所在地及び認証範囲 : ○本社
〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-14-10
第二電波ビル
TEL 03-5294-6323 FAX 03-5294-6332

設立 : 2008年7月
資本金 : 1,000万円
環境管理責任者 : 株式会社サードウェーブホールディングス
人事総務部長 清田 隆一
連絡先 : TEL 03-5294-6323
Mail r_kiyota@twave.co.jp

売上高 : 292億円(2010年7月期/連結)
従業員数及び延床面積 :

	従業員数(人)	延床面積(m ²)
(株) サードウェーブ ホールディングス	40	277

従業員数及び延床面積：

事業所	従業員数(人)	延床面積(m ²)
本社	166	1,131
千葉事業所	231	3,993
店舗	242	7,426
名古屋営業課	4	54
大阪営業課	3	46
合計	646	12,650

表 3.2 店舗一覧

店舗名・部署名	郵便番号	住所
ドスパラ札幌店	060-0807	北海道札幌市北区北7条西5-8-2 井須ビル
ドスパラ仙台店	983-0852	宮城県仙台市宮城野区榴岡1-7-5
ドスパラ宇都宮店	321-0953	栃木県宇都宮市東宿郷1-7-7 小堀ビル1F
ドスパラ大宮店	330-0802	埼玉県さいたま市大宮区宮町2-65 和久津ビル1F
ドスパラ千葉店	260-0027	千葉県千葉市中央区新田町5-3 勝山ビル1F
ドスパラ秋葉原本店	101-0021	東京都千代田区外神田3-11-2 ロック2ビル1F,2F
ドスパラ秋葉原本店買取センター	101-0021	東京都千代田区外神田3-11-2 ロック2ビル3F
ドスパラアキバ店	101-0021	東京都千代田区外神田1-11-4 ミツワビルB1~2F
ドスパラパーツ館	101-0021	東京都千代田区外神田3-11-4 ドスパラパーツ館ビル1F,2F
ドスパラ中古パソコンセンター	101-0021	東京都千代田区外神田3-11-4 ドスパラパーツ館ビル3F
秋葉原サポートセンター	101-0021	東京都千代田区外神田3-11-4 ドスパラパーツ館ビル3F
ドスパラ池袋店	170-0013	東京都豊島区東池袋1-8-6 DKY12ビル1F,2F
ドスパラ新宿店	160-0023	東京都新宿区西新宿1-13-12 西新宿昭和ビル東棟2階事務室
ドスパラ町田店	194-0013	東京都町田市原町田6-7-8 ティップス町田ビル1F
ドスパラ八王子店	192-0083	東京都八王子市旭町12-6 JIビル1F
ドスパラ川崎店	210-0006	神奈川県川崎市川崎区砂子1-1-18 NR共同ビル1F
ドスパラ横浜駅前店	220-0005	神奈川県横浜市西区南幸1-5-30 太洋第一ビル1F,2F
ドスパラ横浜別館	220-0005	神奈川県横浜市西区南幸1-5-30 太洋ビル1F
ドスパラ新潟店	950-0914	新潟県新潟市中央区紫竹山2-4-43 渡辺ビル
ドスパラ金沢店	921-8064	石川県金沢市八日市5-441
ドスパラ浜松店	430-0901	静岡県浜松市中区曳馬6-22-26
ドスパラ名古屋・大須店	460-0011	愛知県名古屋市中区大須3-19-15 サードウェーブ大須ビル
ドスパラ京都店	600-8033	京都府京都市下京区寺町通仏光寺下る恵美須之町536 サードウェーブ京都ビル
ドスパラなんば店	556-0005	大阪府大阪市浪速区日本橋3-6-22 布谷ビル1~4F
ドスパラ梅田店	530-0012	大阪府大阪市北区芝田2-3-23 メイプルビル芝田3F
ドスパラ広島店	730-0051	広島県広島市中区大手町1-5-13 清和大手町ビル1F
ドスパラ博多店	812-0013	福岡県福岡市博多区博多駅東2-2-28 柁村ビル1F

3. 2 事業活動の概要

■株式会社サードウェーブホールディングス

サードウェーブグループの各企業から、人事・総務・法務・経理・ITシステム・不動産等の業務を受託し、日々の業務処理を行なうとともに、業務効率や業務精度の向上、コスト低減に関する最適なアクションを提案し実行することにより、最高のパフォーマンスの実現を目指しています。

■株式会社サードウェーブ

パソコンやパソコンパーツ、モバイルなどを取り扱い、中古販売も行なっています。オリジナル製品の「Prime」パソコンは、価格対性能比が高く、快適で安心なパソコンで、ユーザーのニーズに合わせたラインナップを提供しています。「Prime Galleria」シリーズは、最新の3Dゲームを快適に、安心してプレイするために企画・開発が行なわれているPCゲーム専用のパソコンです。

1) ドスパラ事業部：

全国に店舗を展開するパソコンとパソコンパーツなどの専門店です。自社ブランドのパソコン「Prime」シリーズ、組立キット、サーバ、パソコンパーツ、周辺機器などを豊富に取り揃え、技術アドバイスとアフターケアを第一に考えて販売を実施しています。全て直営店であり、商品の品質とサービスの高さには定評があります。また、国内生産にこだわり、自社工場で一貫生産するなど、信頼のおける商品を迅速に提供し続けています。買取や中古パソコン販売にも対応し、環境に配慮するとともに、モバイル分野など新分野にも参入し、更なる成長を目指しています。

2) 通販事業部：

店舗だけではなく、インターネットで購入できる仕組みを整えています。ホームページでは「Prime」パソコンの自動見積、セール情報、最新製品情報、最新技術情報、オンラインショップ、ブログなど、幅広いコンテンツが充実しています。買いたい商品や情報がすぐに手に入り、お客様が疑問に思っていることもすぐに解消できるのが特徴です。また、DJクラブ会員への、さまざまなサービス提供やメール配信を実施しています。今後もマルチメディア、ブロードバンドに対応して、インターネットとともに成長していきたいと考えています。

3) 法人事業部：

近年のインターネットサイト運営インフラでは、低消費電力化・集積化・パフォーマンス・運用性の向上などが大きな課題になっています。また、システムインテグレーターやアプライアンスベンダーなどのお客様を含め、テクノロジー面でより先鋭化したお客様にとっては、従来のコンピュータメーカーの画一的なラインナップでは、「本当に満足のいく最適なシステム」が実現できるとは限らないのが現状です。法人事業部では企業・学校・病院・行政などを対象に、「フルカスタマイズのサーバ・ワークステーション製品」ならではのメリットを活かし、多数の検証実績に裏付けられた最新の技術ノウハウと合わせて、お客様のご要望に柔軟にお応えできる最適なサーバ・ワークステーション環境をご提案いたします。

4) 千葉事業所（松戸市）：

PCの開発、製作、修理、カスタマーサポート、関連商品の発送及び付帯サービスの業務を行なっています。

■株式会社エバーグリーン

1) 法人営業部門

法人向けに、パソコン周辺機器やAV関連商品、ビジネスバッグ等の外販を行っております。

2) インターネット通販部門

パソコン周辺機器を中心にインターネット販売をする「上海問屋」「クッコ.コム」「宇宙キッズ」を運営しております。

上記のいずれの部門においても、お客様が商品を手にとった時にエバーグリーンの何かに感動をしていただけるようなサービスを目指しています。商品においては常に新商品やニッチな商品の発掘に注力して、お客様の刺激になることも目指しています。

■リプロ電子株式会社

当社が目指すリプロダクションの仕組みは、製品リユース、部品リユースの2本柱からなり、それにとまなうセキュリティ対策やトレーサビリティの確保など、リユースを安全かつ安心に行うための土台を作るものです。また、残渣に関してもリサイクル処理事業者に対し責任を持った処理を行うよう監視します。

これらが経済合理性の元に成り立つ仕組みを作ることは、日本国内のみならず、今後発展を遂げようとしている新興諸国の環境問題にも役立つもので、必ずや将来の地球環境の保全に貢献できるものと信じます。

4. 環境目標とその実績・評価

4. 1 環境目標とその実績・評価

【サードウェーブグループ：Aグループ】

表 4.1 短期・中期の環境目標

(株)サードウェーブホールディングス、(株)サードウェーブ本社・千葉事業所、(株)エノーグリーン本社

環境負荷	単位	基準年度 2009年度 (2008年8月～2009年7月)	短期目標 2010年度 (2009年8月～2010年7月)	中期目標 2012年度 (2011年8月～2012年7月)
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	456.7	447.6 (-2%)	429.3 (-6%)
電気使用量	千 kWh	1208.0	1183.8 (-2%)	1135.5 (-6%)
ガス使用量(LPG)	m ³	15.2	14.9 (-2%)	14.3 (-6%)
水使用量	m ³	2734.0	2597.3 (-5%)	2460.6 (-10%)
紙資源量	kg	57709.5	54824.0 (-5%)	51938.6 (-10%)
その他資源ごみ量	kg	4035.4	3914.3 (-3%)	3833.6 (-5%)
その他廃棄物	kg	55196.2	54644.2 (-1%)	54092.3 (-2%)
グリーン購入の促進	品目	-	9	15
環境配慮した製品の提供	モデル	-	1	5

二酸化炭素排出係数は、0.000378(t-CO₂/kWh)を使用した。

表 4.2 2010年4月～2011年3月の目標とその実績・評価

環境負荷	単位	目標	実績	達成度	評価
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	447.56	420.07	-6.1%	電気使用量及びその他廃棄物の目標達成が、CO ₂ 排出量の目標達成に結びついた。
電気使用量	千 kWh	1183.87	1167.03	-1.4%	目標を達成したのは、サードウェーブの目標達成によるところが大きいですが、全社でも蛍光灯の間引きや、モニターの省電力化などを行っていることが実績に結びついているものと考えられる。
ガス使用量(LPG)	m ³	14.90	27.00	+81.2%	従業員数増加が伴い、目標達成に至らなかったと考えられる。(千葉事業所のみで使用)
水使用量	m ³	2597.30	4317.60	+66.2%	全社的に水廻りの節水の呼びかけ(ポスターの掲示)を行ったが、目標には至らなかった。 目標値を実測値の2倍としていることも起因していると思うが、大幅に実績が上回っているため、今後精査をしていく必要がある。
紙資源量	kg	54823.95	79901.53	+45.7%	目標を大幅に上回ったのは、千葉事業所において可燃ごみと処理していたものを、資源ごみに分別し直したことが原因と思われる。
その他資源ごみ量	kg	3914.29	5867.53	+49.9%	目標を大幅に上回っているのは、目標値が2か月間の6倍で計算をしているため、実績値との大幅な差が発生した可能性が考えられる。今後は実績値の推移を追っていく必要がある。
その他廃棄物	kg	55189.04	46865.18	-15.1%	紙の使用量が減少したことと、紙資源との分別を明確に行ったことにより、目標達成に結び付いた。
グリーン購入の促進	品目	9	5	-4	各事業所において、昨年度に行った、複合機とコピー用紙の切替以降、実績を上げることができなかったため目標に至らなかった。
環境配慮した製品の提供	モデル	1	0	-1	事業計画と照らし合わせ、準備を進めている。

【サードウェーブグループ：Bグループ】

表 4.3 短期・中期の環境目標

(株)サードウェーブ店舗・名古屋営業課・大阪営業課、(株)エナビグリーン戦略物流課、リプロ電子(株)

環境負荷	単位	基準年度 2010年度 (2009年8月～2010年7月)	短期目標 2011年度 (2010年8月～2011年7月)	中期目標 2012年度 (2011年8月～2012年7月)
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	886.8	869.1 (-2%)	833.6 (-6%)
電気使用量	千 kWh	2214.3	2170.0 (-2%)	2081.4 (-6%)
ガス使用量(LNG)	m ³	9786.0	9590.3 (-2%)	9198.8 (-6%)
水使用量	m ³	2610.0	2479.5 (-5%)	2349.0 (-10%)
紙資源量	kg	88717.7	84281.8 (-5%)	79845.9 (-10%)
その他資源ごみ量	kg	2483.1	2408.6 (-3%)	2358.9 (-5%)
その他廃棄物	kg	87391.1	86517.2 (-1%)	85643.3 (-2%)
グリーン購入の促進	品目	-	9	15
環境配慮した製品の提供	モデル	-	1	5

二酸化炭素排出係数は、0.000378(t-CO₂/kWh)を使用した。

表 4.4 試行期間(2011年1月～3月)の目標とその実績・評価

環境負荷	単位	目標	実績	達成度	評価
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	221.72	257.02	+15.9%	電気、水の使用量の目標未達により、CO ₂ 排出量の目標を達成することができなかった。
電気使用量	千 kWh	553.58	683.94	+23.5%	目標達成に至らなかったのは、目標値を実測値の3倍または4倍としていることも起因していると思うが、事務用パソコンのモニターの省電力化などを行っていることが、今後の実績にあらわれてくるものと考えられる。
ガス使用量(LPG)	m ³	2446.50	2084.00	-14.8%	目標を達成したものの、夏場の使用量の方が多いため、引き続き経過を観察する必要がある。
水使用量	m ³	652.50	800.40	+22.7%	全社的に水廻りの節水の呼びかけ（ポスターの掲示）を行ったが、目標には至らなかった。目標値を実測値の3倍または4倍としていることも起因していると思うが、大幅に実績が上回っているため、今後内容を精査をしていく必要がある。
紙資源量	kg	22179.42	15798.79	-28.8%	目標を達成することができた。しかし、ダンボールなど売上に左右されることもあるため、引き続き経過を追っていく必要がある。
その他資源ごみ量	kg	620.78	464.33	-25.2%	店舗、大阪営業課、名古屋営業課の実績から目標を達成することができた。
その他廃棄物	kg	21847.78	9471.45	-56.6%	大幅に目標を達成することができたが、目標値の中には、スポットで大量に発生した数値を含んでいるため、今後、慎重に数字を追っていく必要がある。
グリーン購入の促進	品目	9	2	-7	既に行っている、複合機とコピー用紙の切替以降、実績を上げることができなかったため目標に至らなかった。
環境配慮した製品の提供	モデル	1	0	-1	事業計画と照らし合わせ、準備を進めている。

【株式会社サードウェーブホールディングス】

表 4.5 短期・中期の環境目標^{※6}

環境負荷	単位	基準年度 2009年度 (2008年8月～2009年7月)	短期目標 2010年度 (2009年8月～2010年7月)	中期目標 2012年度 (2011年8月～2012年7月)
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	16.2 ^{※4}	15.9 (-2%)	15.2 (-6%)
電気使用量	千 kWh	42.8 ^{※4}	42.0 (-2%)	40.3 (-6%)
水使用量	m ³	323.8 ^{※4}	307.6 (-5%)	291.4 (-10%)
紙資源量 ^{※1}	kg	435.0 ^{※5}	413.3 (-5%)	391.5 (-10%)
その他資源ごみ量 ^{※2}	kg	142.8 ^{※5}	138.5 (-3%)	135.7 (-5%)
その他廃棄物 ^{※3}	kg	651.6 ^{※5}	645.1 (-1%)	638.6 (-2%)
グリーン購入の促進	品目	-	3	5

※1 機密文書、ダンボール、シュレッダー、書籍、カタログ

※2 空き缶、空き瓶、ペットボトル

※3 可燃ごみ、不燃ごみなど

※4 2009年2月に現在の事務所に移転したため、2009年2月から7月までの半年間の数値の倍数を年間排出量として計上した。

※5 「紙資源、その他資源ごみ、その他廃棄物」の基準年度は、過去データが存在しないため2009年11月～12月の2ヶ月間の実測値を6倍した数値を年間排出量とした。

※6 環境方針に掲げている「環境に配慮した製品提供」は、グループの環境方針であり当社は製品提供者ではないため、グループ会社が環境に配慮した製品を提供できるよう、側面支援を行う。したがって、同項目について当社では数値目標の設定は行っていない。

表 4.6 2010年4月～2011年3月の目標とその実績・評価

環境負荷	単位	目標	実績	達成度	評価
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	15.88	20.61	+29.8%	電気使用量及び水使用量の増加がCO ₂ 排出量の増加に結びついた。
電気使用量	千 kWh	41.94	61.28	+46.1%	基準値には夏場のエアコン使用分が含まれていないため、目標を上回ったものの、日常はモニターの省電力化など、電気使用量の削減を行っている。
水使用量	m ³	307.61	494.56	+60.8%	水廻りの節水の呼びかけ（ポスターの掲示）を行ったが、目標には至らなかった。但し、使用量の按分は、ビル全体の各テナントの従業員に基づくため、実績が近似値となっている。
紙資源量	kg	413.25	412.01	-0.3%	社内資料の電子データ化や、会議でのプロジェクターの積極的な使用を実行したことにより、目標を達成することができたと考えられる。
その他資源ごみ量	kg	138.52	222.10	+60.3%	基準値に夏場の飲料水等の使用分が含まれていないため、目標を上回ったものと考えますが、資源ごみそのものの削減を今後検討する必要がある。
その他廃棄物	kg	645.08	558.46	-13.4%	紙の使用量が減少したことと、紙資源との分別を明確に行ったことにより、目標達成に結び付いた。
グリーン購入の促進	品目	3	2	-1	昨年度に行った、複合機とコピー用紙の切替以降、実績を上げることができなかったため目標に至らなかった。

【株式会社サードウェーブ】

表 4.7 短期・中期の環境目標（本社、千葉事業所）

環境負荷	単位	基準年度 2009年度 (2008年8月～2009年7月)	短期目標 2010年度 (2009年8月～2010年7月)	中期目標 2012年度 (2011年8月～2012年7月)
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	429.7 ^{※4}	421.1 (-2%)	403.9 (-6%)
電気使用量	千 kWh	1,136.6 ^{※4}	1,113.9 (-2%)	1,068.4 (-6%)
ガス使用量(LPG) ^{※6}	m ³	15.2	14.9 (-2%)	14.3 (-6%)
水使用量	m ³	2,256.0 ^{※4}	2,143.2 (-5%)	2,030.4 (-10%)
紙資源量 ^{※1}	kg	57,236.5 ^{※5}	54,374.6 (-5%)	51,512.8 (-10%)
その他資源ごみ量 ^{※2}	kg	3,861.5 ^{※5}	3,745.6 (-3%)	3,668.4 (-5%)
その他廃棄物 ^{※3}	kg	54,480.8 ^{※5}	53,936.0 (-1%)	53,391.2 (-2%)
グリーン購入の促進	品目	-	3	5
環境配慮した製品の提供	モデル	-	1	5

※1 機密文書、ダンボール、シュレッダー、書籍、カタログ

※2 空き缶、空き瓶、ペットボトル

※3 可燃ごみ、不燃ごみなど

※4 本社事業所は 2009 年 2 月に現在の事務所に移転したため、2009 年 2 月から 7 月までの半年間の数値の倍数を年間排出量として計上した。

※5 「紙資源、その他資源ごみ、その他廃棄物」の基準年度は、千葉事業所は実績値、事務所は過去データが存在しないため 2009 年 11 月～12 月の 2 ヶ月間の実測値を 6 倍した数値を年間排出量とした。

※6 LP ガスの利用は、千葉事業所のみ。

表 4.8 短期・中期の環境目標（店舗、名古屋営業課、大阪営業課）

環境負荷	単位	基準年度 2010年度 (2009年8月～2010年7月)	短期目標 2011年度 (2010年8月～2011年7月)	中期目標 2012年度 (2011年8月～2012年7月)
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	827.7 ^{※4※5}	811.1 (-2%)	778.0 (-6%)
電気使用量	千 kWh	2,047.2 ^{※4※5}	2,006.3 (-2%)	1,924.4 (-6%)
ガス使用量(LNG) ^{※7}	m ³	9,786.0 ^{※4※5}	9,590.3 (-2%)	9,198.8 (-6%)
水使用量	m ³	2,522.4 ^{※4※5}	2,396.3 (-5%)	2,270.2 (-10%)
紙資源量 ^{※1}	kg	65,415.4 ^{※6}	62,144.6 (-5%)	58,873.9 (-10%)
その他資源ごみ量 ^{※2}	kg	2,122.9 ^{※6}	2,059.2 (-3%)	2,016.8 (-5%)
その他廃棄物 ^{※3}	kg	81,757.5 ^{※6}	80,939.9 (-1%)	80,122.4 (-2%)
グリーン購入の促進	品目	-	3	5
環境配慮した製品の提供	モデル	-	1	5

※1 ダンボール

※2 空き缶、空き瓶、ペットボトル

※3 可燃ごみ、不燃ごみなど

※4 電気、ガス、水の使用量は、2010年4月～7月または2010年9月～12月の4ヶ月間の実測値を3倍した数値、または2010年10月～12月の3ヶ月間の実測値を4倍した数値を年間排出量として計上した。

※5 物件の都合により測定不能な店舗を含む。

電気、水道：本店、本店買取センター、池袋店、秋葉原サポートセンター

水道：アキバ店、新宿店、宇都宮店、川崎店、広島店、梅田店

※6 「紙資源、その他資源ごみ、その他廃棄物」の基準年度は、過去データが存在しないため、

店舗：2010年10月～12月の3ヶ月間の実測値を4倍した数値

名古屋営業課：2010年9月～12月の4ヶ月間の実測値を3倍した数値

大阪営業課：2010年8月～12月の5ヶ月間の実測値を2.4倍した数値

を年間排出量として計上した。

※7 LNGの利用は、大須店のみ。

表 4.9 2010年4月～2011年3月の目標とその実績・評価（本社、千葉事業所）

環境負荷	単位	目標	実績	達成度	評価
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	421.10	387.27	-8.0%	電気使用量の削減、及び廃棄物の削減により、目標達成に至った。
電気使用量	千 kWh	1,113.90	1,068.90	-4.0%	不要な箇所の電灯の消灯や、電化製品の使用を止めたことが、目標達成の原因と考える。また少なからず震災の影響もあるものと思う。
ガス使用量	m ³	14.90	27.00	+81.2%	従業員数増加が伴い、目標達成に至らなかったと考えられる。
水使用量	m ³	2,143.20	3,580.03	+67.0%	水廻りの節水の呼びかけ（ポスターの掲示）を行ったが、従業員数の増加もあり、目標には至らなかった。但し、本社の使用量の按分は、ビル全体の各テナントの従業員に基づくため、実績が近似値となっている。
紙資源量	kg	54,374.60	79,176.39	+45.6%	可燃ごみとして処理していたものを、資源ごみに分別し直したことが目標を上回った原因のひとつ。また、千葉事業所において、一部その他廃棄物に分別していたダンボールを、分別し直したことも、紙資源量増加の要因の一つである。
その他資源ごみ量	kg	3,745.60	5,565.14	+48.6%	従業員数の増加に伴い、目標を達成することはできなかった。今後、資源ごみを減らせるよう、内容を精査していく。
その他廃棄物	kg	54,480.80	46,172.96	-15.2%	ごみ分別の細分化によって、可燃ごみ、不燃ごみとして処理していたものを、資源ごみに分別するようになったのが、目標達成に至ったと考えられる。
グリーン購入の促進	品目	3	1	-2	昨年度に行った、コピー用紙の切替以降、実績を上げることができなかったため目標に至らなかった。
環境配慮した製品の提供	モデル	1	0	-1	事業計画と照らし合わせ、準備を進めている。

表 4.10 試行期間(2011年1月～3月)の目標とその実績・評価

(店舗、名古屋営業課、大阪営業課)

環境負荷	単位	目標	実績	達成度	評価
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	206.93	240.48	+16.2%	電気使用量及び水使用量が目標を上回ったため、目標達成に至らなかった。
電気使用量	千 kWh	511.80	634.68	+24.0%	目標達成に至らなかった原因は、目標値を実測値の3倍または4倍としていることも起因していると思うが、営業時間外の電気使用量を削減できるか検討中である。
ガス使用量	m ³	2,446.50	2,084.00	-14.8%	目標を達成したものの、夏場の使用量の方が多いため、引き続き経過を観察する必要がある。
水使用量	m ³	630.60	785.20	+24.5%	目標達成に至らなかった原因は、目標値を実測値の3倍または4倍としていることも起因していると思うが、今後内容の精査を行う。
紙資源量	kg	16,353.85	11,732.97	-28.3%	目標を達成することができた。店舗における紙資源量は主にダンボールになるため、売上や時期によって数値が変動するため、注意して数字を追っていく必要がある。
その他資源ごみ量	kg	530.73	370.95	-30.1%	大幅に目標を達成することができた。
その他廃棄物	kg	20,439.38	8,531.38	-58.3%	大幅に目標を達成することができたが、目標値の中には、スポットで大量に発生した数値を含んでいるため、実態としては、実績値とほぼ同じ数値と考えている。
グリーン購入の促進	品目	3	1	-2	コピー用紙を切り替えたが、環境負荷の削減活動に追われ、目標に至らなかった。
環境配慮した製品の提供	モデル	1	0	-1	事業計画と照らし合わせ、準備を進めている。

表 4.11 主要な環境活動計画の内容

環境方針	主要な取組項目	対象			
		本社	千葉事業所	法人事業部	店舗
省エネルギー推進による二酸化炭素排出量の削減	不要照明の消灯	○	○	○	○
	室温管理の適正化	○	○	○	○
	空調設備の定期メンテナンス	○	○	○	○
環境に配慮した製品の提供	製品パソコンの環境負荷の把握	○	対象外	対象外	対象外
	中古事業の開発	○	対象外	対象外	対象外
事業活動より排出される廃棄物の削減、リサイクルの推進	社内資料の電子化	○	○	○	○
	リサイクルの見直し	○	○	○	○
	分別状況の確認・見直し	○	○	○	○
グリーン購入の促進	環境配慮製品の把握・切替え	○	○	○	○
水使用量の削減	節水運動の展開	○	○	○	○

【株式会社エバーグリーン】

表 4.12 短期・中期の環境目標^{※6}

環境負荷	単位	基準年度：上段 本社 2009 年度 (2008年8月～2009年7月)	短期目標：上段 本社 2010 年度 (2009年8月～2010年7月)	中期目標 2012 年度 (2011年8月～2012年7月)
		基準年度：下段 戦略物流課 2010 年度 (2009年8月～2010年7月)	短期目標：下段 戦略物流課 2011 年度 (2010年8月～2011年7月)	
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	10.8 ^{※4}	10.6 (-2%)	10.2 (-6%)
		56.7	55.6 (-2%)	53.3 (-6%)
電気使用量	千 kWh	28.6 ^{※4}	28.1 (-2%)	26.9 (-6%)
		160.7 ^{※6}	157.5 (-2%)	151.1 (-6%)
水使用量	m ³	154.2 ^{※4}	146.5 (-5%)	138.8 (-10%)
		- ^{※7}	-	-
紙資源量 ^{※1}	kg	38.0 ^{※5}	36.1 (-5%)	34.2 (-10%)
		23,143.7 ^{※8}	21,986.5 (-5%)	20,829.3 (-10%)
その他資源ごみ量 ^{※2}	kg	31.1 ^{※5}	30.1 (-3%)	29.5 (-5%)
		298.5 ^{※8}	289.5 (-3%)	283.6 (-5%)
その他廃棄物 ^{※3}	kg	63.8 ^{※5}	63.1 (-1%)	62.5 (-2%)
		5,545.3 ^{※8}	5,489.8 (-1%)	5,434.4 (-2%)
グリーン購入の促進	品目	-	3	5

※1 機密文書、ダンボール、シュレッダー、書籍、カタログ

※2 空き缶、空き瓶、ペットボトル

※3 可燃ごみ、不燃ごみなど

※4 2009年2月に現在の事務所に移転したため、2009年2月から7月までの半年間の数値の倍数を年間排出量として計上した。

※5 「紙資源、その他資源ごみ、その他廃棄物」の基準年度は、過去データが存在しないため2009年11月～12月の2ヶ月間の実測値を6倍した数値を年間排出量とした。

※6 2010年4月以前の数値が取得できないため、2010年5月から7月までの3ヶ月間の数値の4倍を年間排出量として計上した。

※7 物件の都合により、数値を取得することができないため計測不能とした。

※8 「紙資源、その他資源ごみ、その他廃棄物」の基準年度は、過去データが存在しないため2010年8月～12月の5ヶ月間の実測値を2.4倍した数値を年間排出量とした。

※9 環境方針に掲げている「環境に配慮した製品提供」は、グループの環境方針であり当社は製品提供者ではないため、グループ会社が環境に配慮した製品を提供できるよう、側面支援を行う。したがって、同項目について当社では数値目標の設定は行っていない。

表 4.13 2010年4月～2011年3月の目標とその実績・評価（本社）

環境負荷	単位	目標	実績	達成度	評価
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	10.58	12.19	+15.2%	電気使用量、水使用量の増加及び新商材の梱包材排出量の増加に伴い、CO ₂ 排出量の増加に至った。 目標に含まれていない内容もあるので、今後の実績値を慎重に観察していく必要がある。
電気使用量	千 kWh	28.03	36.85	+31.5%	基準値には夏場のエアコン使用分が含まれていないため、目標を上回ったものの、日常はモニターの省電力化など、電気使用量の削減を行っている。
水使用量	m ³	146.49	243.01	+65.9%	水廻りの節水の呼びかけ（ポスターの掲示）を行ったが、目標には至らなかった。 但し、使用量の按分は、ビル全体の各テナントの従業員に基づくため、実績が近似値となっている。
紙資源量	kg	36.10	313.13	+767.4%	社内資料の電子データ化等を実行しているが、新商材の影響に伴うダンボールの排出量が増加したため、目標より大幅な達成度となった。
その他資源ごみ量	kg	30.17	80.29	+166.1%	基準値に夏場の飲料水等の使用分が含まれていないため、目標を上回ったものと考えますが、資源ごみそのものの削減を今後検討する必要がある。
その他廃棄物	kg	63.16	133.76	+111.8%	ごみの分別を徹底して行っているが、新商材の影響に伴う梱包材の排出量が増加したため、達成度は目標より大幅な数値となった。
グリーン購入の促進	品目	3	2	-1	昨年度に行った、複合機とコピー用紙の切替以降、実績を上げることができなかったため目標に至らなかった。

表 4.14 試行期間(2011年1月～3月)の目標とその実績・評価 (戦略物流課)

環境負荷	単位	目標	実績	達成度	評価
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	14.18	15.91	+12.2%	電気使用量の増加により、目標達成に至らなかった。 売上の増減にもよるが、廃棄物の排出を現状維持できれば、CO ₂ の排出量の削減が見込める。
電気使用量	千 kWh	40.18	47.60	+18.5%	面積の広さから夏冬共にエアコンを使用している。今後の対策として、事務所部分と倉庫部分の間にビニールカーテンの設置を予定している。
水使用量	m ³	-	-	-	物件の都合により計測不能。
紙資源量	kg	5,785.93	4,049.62	-30.0%	大幅な達成度にはなっているが、売上等によって数値が変動するため、引き続き数値を追っていく必要がある。
その他資源ごみ量	kg	74.63	74.35	-0.4%	水筒等の持参を実施した効果があり、目標を達成できた。
その他廃棄物	kg	1,386.33	912.82	-34.2%	大幅な達成度にはなっているが、売上等によって数値が変動するため、引き続き数値を追っていく必要がある。
グリーン購入の促進	品目	3	1	-2	既に切り替えている環境配慮製品のコピー用紙以外は、環境負荷活動に追われ、目標に至らなかった。

【リプロ電子株式会社】

表 4.15 短期・中期の環境目標

環境負荷	単位	基準年度 2010年度 (2009年8月～2010年7月)	短期目標 2011年度 (2010年8月～2011年7月)	中期目標 2012年度 (2011年8月～2012年7月)
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	2.4 ^{※4※5}	2.4 (-2%)	2.3 (-6%)
電気使用量	千 kWh	6.4 ^{※4}	6.3 (-2%)	6.0 (-6%)
水使用量	m ³	87.6 ^{※4}	83.2 (-5%)	78.8 (-10%)
紙資源量 ^{※1}	kg	158.6 ^{※5}	150.7 (-5%)	142.7 (-10%)
その他資源ごみ量 ^{※2}	kg	61.7 ^{※5}	59.8 (-3%)	58.6 (-5%)
その他廃棄物 ^{※3}	kg	88.3 ^{※5}	87.4 (-1%)	86.5 (-2%)
グリーン購入の促進	品目	-	3	5
環境配慮した製品の提供	モデル	-	1	5

※1 機密文書、ダンボール、シュレッダー、書籍、カタログ

※2 空き缶、空き瓶、ペットボトル

※3 可燃ごみ、不燃ごみなど

※4 リプロ電子は2010年5月に現在の事務所に移転したため、2010年6月～7月の2ヶ月間の実測値を6倍した数値を年間排出量として計上した。

※5 「紙資源、その他資源ごみ、その他廃棄物」の基準年度は、過去データが存在しないため2010年9月～12月の4ヶ月間の実測値を3倍した数値を年間排出量とした。

表 4.16 試行期間(2011年1月～3月)の目標とその実績・評価

環境負荷	単位	目標	実績	達成度	評価
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	0.61	0.63	+3.7%	電気使用量及びその他廃棄物が目標を上回ったため、目標達成に至らなかった。しかし、基準となる数値が低いということもあり、引き続き内容を精査していく必要がある。
電気使用量	千 kWh	1.60	1.66	+3.8%	目標達成に至らなかったが、ほぼ横ばいであった。以後は、蛍光灯の間引き、冷蔵庫、ポットの使用を止めることから、達成度に期待ができる。
水使用量	m ³	21.90	15.20	-30.6%	水廻りの節水の呼びかけ（ポスターの掲示）を行ったが、目標には至らなかった。但し、使用量の按分は、ビル全体の各テナントの従業員に基づくため、実績が近似値となっている。
紙資源量	kg	39.64	16.20	-59.1%	大幅に目標を達成することができた。
その他資源ごみ量	kg	15.42	19.03	+23.4%	冬場ということもあり、空き缶の排出量が増えたため目標達成に至らなかった。
その他廃棄物	kg	22.07	27.25	+23.5%	目標を達成することはできなかった。今後、廃棄物を減らせるよう、内容を精査していく。
グリーン購入の促進	品目	3	0	-3	実績はまだないが、コピー用紙は既に環境配慮製品とFSC 認証製品を使用している。
環境配慮した製品の提供	モデル	1	0	-1	事業計画と照らし合わせ、準備を進めている。

4. 2 環境取組に対する目標とその実績・評価

各サイトの環境目標に対する取り組みとその評価に関して、表 4.17～表 4.26 に示します。

【株式会社サードウェブホールディングス】

表 4.17 環境活動の取組とその評価

環境方針	環境活動計画	評価	
	具体的な取組項目	評価	取組概要
1. 省エネルギー推進による二酸化炭素排出量の削減	不要時の消灯を徹底する	○	実行されている。
	エアコンの温度管理の徹底する	○	実行されている。
	不要時に空調を使用しない	○	実行されている。
	トイレの電気を不使用時に消灯する	○	ポスターの貼付を行い、実行されている。
	パソコンの省電力モードを設定する	○	社内の電子掲示板で方法等について通達をした。
2. 事業活動より排出される廃棄物の削減、リサイクルの推進	社内資料の電子化を進める	○	概ね実行されている。
	社内の紙資料は裏紙を利用する	○	紙資料に利用するだけでなく、はがせる糊で付箋への再利用も行っている。
	資料は両面印刷を促進する	○	実行されている。
	分別を徹底し、内訳詳細を把握する	○	主な廃棄物の一覧の作成を行った。
	エコバッグを使用し、ビニール袋や紙袋の消費を抑える	○	実行されている。
	一般廃棄物の分別を徹底し、資源ごみとその他ごみの分別を徹底する	○	本社の廃棄物フローを共有することにより、分別の必要性等をアナウンスした。
	不要備品（パソコン、机、イスなど）の共有により廃棄物を削減する	○	毎月、不要備品の案内を社内の電子掲示板で行っている。
文房具のリサイクルボックスを設置し、廃棄物を削減する	○	各部署で設置していたものを一箇所にまとめ、見直しを行った。	
3. グリーン購入の促進	事務用品の調達状況を見直し、環境に配慮しているものとそうでないものを分けて把握する	△	事務用品の商品の洗い出しまでは行ったが、見直しまでに至っていない。
	環境配慮製品への切り替えを行う	○	環境配慮製品のコピー用紙に切り替えを行った。
4. 水使用量の削減	手洗い時の節水を心掛ける	○	ビル管理会社に掲示をしていただいた。

【株式会社サードウェーブ】

表 4.18 環境活動の取組とその評価（本社 9 階サイト）

環境方針	環境活動計画	評価	
	具体的な取組項目	評価	取組概要
1. 省エネルギー推進による二酸化炭素排出量の削減	不要時の消灯を徹底する	○	実行されている。
	エアコンの温度管理の徹底する	○	実行されている。
	不要時に空調を使用しない	○	実行されている。
	トイレの電気を不使用時に消灯する	○	ポスターの貼付を行い、実行されている。
	パソコンの省電力モードを設定する	○	社内の電子掲示板で通達された内容をもとに実行している。
2. 事業活動より排出される廃棄物の削減、リサイクルの推進	社内資料の電子化を進める	△	現状、呼びかけのみで、個人の裁量に任せている。
	社内の紙資料は裏紙を利用する	△	現状、呼びかけのみで、個人の裁量に任せている。
	資料は両面印刷を促進する	×	複合機が両面印刷に非対応。
	分別を徹底し、内訳詳細を把握する	○	主な廃棄物の一覧の作成・掲示を行った。
	エコバッグを使用し、ビニール袋や紙袋の消費を抑える	△	設置はしているが、使用頻度の調査まで至っていない。
	一般廃棄物の分別を徹底し、資源ごみとその他ごみの分別を徹底する	○	本社の廃棄物フローを共有した。
	不要備品（パソコン、机、イスなど）の共有により廃棄物を削減する	○	毎月、不要備品の案内を社内の電子掲示板で確認している。
文房具のリサイクルボックスを設置し、廃棄物を削減する	○	実行されている。	
3. グリーン購入の促進	事務用品の調達状況を見直し、環境に配慮しているものとそうでないものを分けて把握する	△	事務用品の商品の洗い出しまでは行ったが、見直しまでに至っていない。
	環境配慮製品への切り替えを行う	○	環境配慮製品のコピー用紙に切り替えを行った。
4. 水使用量の削減	手洗い時の節水を心掛ける	○	ビル管理会社に掲示をしていただいた。

表 4.19 環境活動の取組とその評価（千葉事業所）

環境方針	環境活動計画	評価	
	具体的な取組項目	評価	取組概要
1. 省エネルギー推進による二酸化炭素排出量の削減	不要時の消灯を徹底する	○	終業時にチェック表にて消灯確認を実施している。
	エアコンの温度管理の徹底する	○	工場、食堂の温度について、冬場は 21 度±1 度、夏場は 28 度±1 度に管理を実施している。冬場は設定した温度よりも低い場所があるため、ジャンパー、スポットヒーターやホッカイロを用いている場合もある。
	不要時に空調を使用しない	○	各階最終退出者が空調を停止するよう実施している。
	空調設備を定期的に清掃・点検する	○	清掃・点検実施中
	照明の消費電力の見直しと適正化を行う	△	一部の箇所で、一灯式で二灯式と同等の明るさのもの導入した。
	照明の電気系統を見直し、個人またはグループごとに照明のコントロールができるようにする	△	一部の箇所で、個人で照明のコントロールができるようにした。
	試運転、検査工程におけるモニター、本体の電源管理を徹底する	○	実行されている。
	パソコンの省電力モードを設定する	○	社内の電子掲示板で通達された内容をもとに実行している。
2. 事業活動より排出される廃棄物の削減、リサイクルの推進	産業廃棄物と一般廃棄物の区分を確認し、混合しないようにする	○	廃棄物の処理区分を明確化した。
	産業廃棄物の保管場所には、法令に即した形で掲示・保管環境を整備する	○	実行されている。
	処理委託契約書の見直しを行い、法令記載事項の漏れがないか確認する。	△	契約書の見直しは完了。契約締結は5月中に実施予定。
	マニフェストの運用、保管、確認を行う	○	実行されている。
	品目別の産業廃棄物発生量を把握する	○	実行されている。
	社内で分別可能なもの、不可能なものを把握する	○	一覧表を作成済み
	社内で分別することによりリサイクル可能なものは分別する	○	一部プラスチック袋等を、リサイクル使用している。
	処理委託先の見直しを行い、リサイクル率の向上に努める	○	産廃管理業者と確認を行い、産廃の細分化を行った。
	社内資料の電子化を進める	○	プロジェクターを活用している。
	社内の紙資料は裏紙を利用する	○	実行されている。
資料は両面印刷を促進する	○	両面印刷のできる機器で実施中。	
4. グリーン購入の促進	事務用品の調達状況を見直し、環境に配慮しているものとそうでないものを分けて把握する	△	事務用品の商品の洗い出しまでは行ったが、見直しまでに至っていない。
	環境配慮製品への切り替えを行う	○	環境配慮製品のコピー用紙に切り替えを行った。
5. 水使用	手洗い時の節水を心掛ける	○	各蛇口に節水カードを設置済み。

環境方針	環境活動計画	評価	
	具体的な取組項目	評価	取組概要
量の削減			

表 4.20 環境活動の取組とその評価（法人事業部 6 階サイト）

環境方針	環境活動計画	評価	
	具体的な取組項目	評価	取組概要
1. 省エネルギー推進による二酸化炭素排出量の削減	不要時の消灯を徹底する	○	実行されている。
	エアコンの温度管理の徹底する	○	実行されている。
	不要時に空調を使用しない	○	実行されている。
	トイレの電気を不使用時に消灯する	○	ポスターの貼付を行い、実行されている。
	パソコンの省電力モードを設定する	○	社内の電子掲示板で通達された内容をもとに実行している。
2. 事業活動より排出される廃棄物の削減、リサイクルの推進	社内資料の電子化を進める	○	実行されている。
	社内の紙資料は裏紙を利用する	○	プリンタや複合機で使用すると紙詰まりが発生するため、メモ用紙に利用している。
	資料は両面印刷を促進する	○	実行されている。
	分別を徹底し、内訳詳細を把握する	○	主な廃棄物の一覧の作成・掲示を行った。
	エコバッグを使用し、ビニール袋や紙袋の消費を抑える	△	設置はしているが、利用は個人の裁量に任せている。
	一般廃棄物の分別を徹底し、資源ごみとその他ごみの分別を徹底する	○	本社の廃棄物フローを共有した。
	不要備品（パソコン、机、イスなど）の共有により廃棄物を削減する	○	毎月、不要備品の案内を社内の電子掲示板で確認している。
3. グリーン購入の促進	文房具のリサイクルボックスを設置し、廃棄物を削減する	○	実行されている。
	事務用品の調達状況を見直し、環境に配慮しているものとそうでないものを分けて把握する	△	事務用品の商品の洗い出しまでは行ったが、見直しまでに至っていない。
4. 水使用量の削減	環境配慮製品への切り替えを行う	○	環境配慮製品のコピー用紙に切り替えを行った。
	手洗い時の節水を心掛ける	○	ビル管理会社に掲示をしていただいた。

表 4.21 環境活動の取組とその評価（名古屋営業課）

環境方針	環境活動計画	評価	
	具体的な取組項目	評価	取組概要
1. 省エネルギー推進による二酸化炭素排出量の削減	不要時の消灯を徹底する	○	実行されている。
	エアコンの温度管理の徹底する	○	実行されている。
	不要時に空調を使用しない	○	実行されている。
	パソコンの省電力モードを設定する	○	実行されている。
	空調設備を定期的に清掃・点検する	○	実行されている。
2. 事業活動より排出される廃棄物の削減、リサイクルの推進	社内資料の電子化を進める	○	概ね実行されている。
	社内の紙資料は裏紙を利用する	○	実行されている。
	資料は両面印刷を促進する	○	実行されている。
	印刷物を削減する	○	実行されている。
	FAXはデータ化し、紙を印刷しない	○	FAX専用ソフトを導入している。
	分別を徹底し、内訳詳細を把握する	○	主な廃棄物の一覧の掲示を行った。
	エコバッグを使用し、ビニール袋や紙袋の消費を抑える	△	実行されているが、再徹底の必要がある。
	一般廃棄物の分別を徹底し、資源ごみとその他ごみの分別を徹底する	○	主な廃棄物の一覧の掲示をすることにより徹底している。
	不要備品（パソコン、机、イスなど）の共有により廃棄物を削減する	○	現状不用品は発生していないが、毎月、不要備品の案内を社内の電子掲示板で確認している。
文房具のリサイクルボックスを設置し、廃棄物を削減する	×	少人数のため、各自で保管している。	
3. グリーン購入の促進	事務用品の調達状況を見直し、環境に配慮しているものとそうでないものを分けて把握する	△	事務用品の商品の洗い出しまでは行ったが、見直しまでに至っていない。
	環境配慮製品への切り替えを行う	○	環境配慮製品のコピー用紙に切り替えを行った。
4. 水使用量の削減	手洗い時の節水を心掛ける	○	実行されている。

表 4.22 環境活動の取組とその評価（大阪営業課）

環境方針	環境活動計画	評価	
	具体的な取組項目	評価	取組概要
1. 省エネルギー推進による二酸化炭素排出量の削減	不要時の消灯を徹底する	○	実行されている。
	エアコンの温度管理の徹底する	○	実行されている。
	不要時に空調を使用しない	○	実行されている。冬場は暖房が不要。
	トイレの電気を不使用時に消灯する	○	実行されている。
	パソコンの省電力モードを設定する	○	実行されている。
2. 事業活動より排出される廃棄物の削減、リサイクルの推進	社内資料の電子化を進める	○	概ね実行されている。
	社内の紙資料は裏紙を利用する	×	裏紙を利用していたプリンタが故障したため現状は実施していない。
	資料は両面印刷を促進する	×	両面印刷をできるプリンタや複合機が無い。
	分別を徹底し、内訳詳細を把握する	○	主な廃棄物の一覧の掲示を行った。
	エコバッグを使用し、ビニール袋や紙袋の消費を抑える	○	実行されている。
	一般廃棄物の分別を徹底し、資源ごみとその他ごみの分別を徹底する	○	主な廃棄物の一覧の掲示をすることにより徹底している。
	不要備品（パソコン、机、イスなど）の共有により廃棄物を削減する	○	現状不用品は発生していないが、毎月、不要備品の案内を社内の電子掲示板で確認している。
文房具のリサイクルボックスを設置し、廃棄物を削減する	○	実行されている。	
3. グリーン購入の促進	事務用品の調達状況を見直し、環境に配慮しているものとそうでないものを分けて把握する	△	事務用品の商品の洗い出しまでは行ったが、見直しまでに至っていない。
	環境配慮製品への切り替えを行う	○	環境配慮製品のコピー用紙に切り替えを行った。
4. 水使用量の削減	手洗い時の節水を心掛ける	○	実行されている。

表 4.23 環境活動の取組とその評価（店舗）

環境方針	環境活動計画	評価	
	具体的な取組項目	評価	取組概要
1. 省エネルギー推進による二酸化炭素排出量の削減	閉店後 不要時の消灯を徹底する	○	実行されている。
	不要時に空調を使用しない	○	実行されている。冬場は暖房が不要。
	トイレの電気を不使用時に消灯する	○	実行されている。
	パソコンの省電力モードを設定する	△	社内の電子掲示板で通達された内容をもとに実行しているが、まだ徹底されていない店舗もある。
2. 事業活動より排出される廃棄物の削減、リサイクルの推進	印刷物を削減する	○	概ね実行されている。
	分別を徹底し、内訳詳細を把握する	△	分別を徹底できるよう、分別状況等を把握する必要がある。
	エコバッグを使用し、ビニール袋や紙袋の消費を抑える	×	現状、呼びかけのみで、個人の裁量に任せている。また、未実施の店舗も見受けられる。
	一般廃棄物の分別を徹底し、資源ごみとその他ごみの分別を徹底する	○	主な廃棄物の一覧の掲示をすることにより徹底している。
	不要備品（パソコン、机、イスなど）の共有により廃棄物を削減する	○	毎月、不要備品の案内を社内の電子掲示板で確認している。
	文房具の共有BOXを設置し、廃棄物を削減する	×	徹底、実施されていない店舗がある。
3. グリーン購入の促進	事務用品の調達状況を見直し、環境に配慮しているものとそうでないものを分けて把握する	△	事務用品の商品の洗い出しまでは行ったが、見直しまでに至っていない。
	環境配慮製品への切り替えを行う	○	環境配慮製品のコピー用紙に切り替えを行った。
4. 水使用量の削減	手洗い時の節水を心掛ける	○	実行されている。

【評価の基準】 ○：徹底が出来ている

△：取り組んでいるが、まだ徹底できていない

×：取り組んでいない、今後の課題

【株式会社エバーグリーン】

表 4.24 環境活動の取組とその評価（本社）

環境方針	環境活動計画	評価	
	具体的な取組項目	評価	取組概要
1. 省エネルギー推進による二酸化炭素排出量の削減	不要時の消灯を徹底する	○	実行されている。
	エアコンの温度管理の徹底する	○	実行されている。
	不要時に空調を使用しない	○	実行されている。
	トイレの電気を不使用时に消灯する	○	ポスターの貼付を行い、実行されている。
	パソコンの省電力モードを設定する	○	社内の電子掲示板で通達された内容をもとに実行している。
2. 事業活動より排出される廃棄物の削減、リサイクルの推進	社内資料の電子化を進める	○	概ね実行されている。
	社内の紙資料は裏紙を利用する	○	裏紙を 1/4 に裁断したものをまとめ、メモ帳として使用している。
	資料は両面印刷を促進する	○	実行されている。
	分別を徹底し、内訳詳細を把握する	○	主な廃棄物の一覧の作成・掲示を行った。
	エコバッグを使用し、ビニール袋や紙袋の消費を抑える	○	実行されている。
	一般廃棄物の分別を徹底し、資源ごみとその他ごみの分別を徹底する	○	本社の廃棄物フローを共有した。
	不要備品（パソコン、机、イスなど）の共有により廃棄物を削減する	○	毎月、不要備品の案内を社内の電子掲示板で確認している。
3. グリーン購入の促進	文房具のリサイクルボックスを設置し、廃棄物を削減する	○	実行されている。
	事務用品の調達状況を見直し、環境に配慮しているものとそうでないものを分けて把握する	△	事務用品の商品の洗い出しまでは行ったが、見直しまでに至っていない。
4. 水使用量の削減	環境配慮製品への切り替えを行う	○	環境配慮製品のコピー用紙に切り替えを行った。
	手洗い時の節水を心掛ける	○	ビル管理会社に掲示をしていただいた。

表 4.25 環境活動の取組とその評価（戦略物流課）

環境方針	環境活動計画	評価	
	具体的な取組項目	評価	取組概要
1. 省エネルギー推進による二酸化炭素排出量の削減	不要時の消灯を徹底する	○	実行されている。
	エアコンの温度管理の徹底する	○	実行されている。
	不要時に空調を使用しない	○	実行されている。
	トイレの電気を不使用时に消灯する	○	ポスターの貼付を行い、実行されている。
	空調設備を定期的に清掃・点検する	○	業者に委託している。
	照明の消費電力の見直しと適正化を行う	○	電源増設工事を行い、各デスクグループで電源を追うことができるようになった。
	照明の電気系統を見直し、個人またはグループごとに照明のコントロールができるようにする	×	電源増設工事後、配線の整備まではできていないが、今後整備をすることによって、退社後のデスクグループは、一括で電源を落とすことが可能になる予定。
	試運転、検査工程におけるモニター、本体の電源管理を徹底する	○	Windows7 導入後にも再設定をし、実行している。
2. 事業活動より排出される廃棄物の削減、リサイクルの推進	産業廃棄物と一般廃棄物の区分を確認し、混合しないようにする	○	実行されている。
	産業廃棄物の保管場所には、法令に即した形で掲示・保管環境を整備する。	×	未実施
	処理委託契約書の見直しを行い、法令記載事項の漏れがないか確認する	○	実行されている。
	manifestの運用、保管、確認を行う	○	実行されている。
	品目別の産業廃棄物発生量を把握する	○	実行されている。
	社内で分別可能なもの、不可能なものを把握する	○	実行されている。
	社内で分別することによりリサイクル可能なものは分別する	○	実行されている。
	処理委託先の見直しを行い、リサイクル率の向上に努める	×	処理委託先の選定を行っている。
	社内資料の電子化を進める	○	概ね実行されている。
	社内の紙資料は裏紙を利用する	○	実行されている。
	資料は両面印刷を促進する	○	実行されている。
	分別を徹底し、内訳詳細を把握する	○	主な廃棄物の一覧の掲示を行った。
	エコバッグを使用し、ビニール袋や紙袋の消費を抑える	○	実行されている。
	一般廃棄物の分別を徹底し、資源ごみとその他ごみの分別を徹底する	○	主な廃棄物の一覧の掲示をすることにより徹底している。
	不要備品（パソコン、机、イスなど）の共有により廃棄物を削減する	○	毎月、不要備品の案内を社内の電子掲示板で確認している。

環境方針	環境活動計画	評価	
	具体的な取組項目	評価	取組概要
	文房具のリサイクルボックスを設置し、廃棄物を削減する	○	実行されている。
	一般廃棄物・産廃物の分別廃棄を行い、資源を再生化する	○	間違いの無いよう、十分に配慮している。
3. グリーン購入の促進	事務用品の調達状況を見直し、環境に配慮しているものとそうでないものを分けて把握する	△	事務用品の商品の洗い出しまでは行ったが、見直しまでに至っていない。
	環境配慮製品への切り替えを行う	○	環境配慮製品のコピー用紙に切り替えを行った。
4. 水使用量の削減	手洗い時の節水を心掛ける	○	共用部にあるトイレは、ポスターの掲示が禁止されているため、倉庫内に掲示している。

【評価の基準】 ○：徹底が出来ている

△：取り組んでいるが、まだ徹底できていない

×：取り組んでいない、今後の課題

【リプロ電子株式会社】

表 4.26 環境活動の取組とその評価

環境方針	環境活動計画	評価	
	具体的な取組項目	評価	取組概要
1. 省エネルギー推進による二酸化炭素排出量の削減	不要時の消灯を徹底する	○	実行されている。蛍光灯の間引きも行った。
	エアコンの温度管理の徹底する	○	実行されている。
	不要時に空調を使用しない	○	実行されている。
	トイレの電気を不使用时に消灯する	○	実行されている。
	パソコンの省電力モードを設定する	△	社内の電子掲示板で通達された内容をもとに実行しているが、一部未実施である。
2. 事業活動より排出される廃棄物の削減、リサイクルの推進	社内資料の電子化を進める	○	実行されている。
	社内の紙資料は裏紙を利用する	○	使用済みのカレンダー等を、名刺に再利用している。
	資料は両面印刷を促進する	○	実行されている。
	分別を徹底し、内訳詳細を把握する	○	実行されている。
	エコバッグを使用し、ビニール袋や紙袋の消費を抑える	△	設置はしているが、呼びかけのみで、個人の裁量に任せている。
	一般廃棄物の分別を徹底し、資源ごみとその他ごみの分別を徹底する	○	実行されている。
	不要備品（パソコン、机、イスなど）の共有により廃棄物を削減する	×	現状、廃棄物の排出がないため。
3. グリーン購入の促進	事務用品の調達状況を見直し、環境に配慮しているものとそうでないものを分けて把握する	△	事務用品の商品の洗い出しまでは行ったが、見直しまでに至っていない。
	環境配慮製品への切り替えを行う	○	環境配慮製品、FSC 認証製品のコピー用紙を購入している。
4. 水使用量の削減	手洗い時の節水を心掛ける	○	ビル管理会社に掲示をしていただいた。

5. 環境関連法規の遵守状況

当社は、事業所ごとに適用となる環境関連法令一覧を作成し、管理しています。2009年10月より毎月更新状況・遵守状況を確認しています。2011年3月現在、環境関連法規への違反、訴訟はありませんでした。また、関係当局より違反等の指摘に関しては、過去5年間1件もありませんでした。

【株式会社サードウェーブホールディングス】

表 5.1 環境関連法規の遵守状況

主な環境法規制の名称（略称）	遵守状況
廃棄物処理法	遵法
家電リサイクル法	遵法
千代田区生活環境条例	遵法

最終法令更新確認日：2011年3月

【株式会社サードウェーブ】

表 5.2 環境関連法規の遵守状況

主な環境法規制の名称（略称）	遵守状況
廃棄物処理法	遵法
資源有効利用促進法	遵法
家電リサイクル法	遵法
容器包装リサイクル法	遵法
消防法	遵法
名古屋市環境基本条例	遵法
大阪市環境基本条例	遵法
千代田区生活環境条例	遵法

最終法令更新確認日：2011年3月

【株式会社エバーグリーン】

表 5.3 環境関連法規の遵守状況

主な環境法規制の名称（略称）	遵守状況
廃棄物処理法	遵法
容器包装リサイクル法	遵法
家電リサイクル法	遵法
千代田区生活環境条例	遵法
千葉市環境保全条例	遵法

最終法令更新確認日：2011年3月

【リプロ電子株式会社】

表 5.4 環境関連法規の遵守状況

主な環境法規制の名称（略称）	遵守状況
廃棄物処理法	遵法
資源有効利用促進法	遵法
家電リサイクル法	遵法
容器包装リサイクル法	遵法
千代田区生活環境条例	遵法

最終法令更新確認日：2011年3月

6. 代表者による総合評価と見直し

<総合評価>

環境問題に対しての企業責任を認識し、環境に配慮した事業活動の推進を重要な経営課題と位置づけ、各事業所及び各グループ企業において環境負荷軽減に取り組み、昨年7月にエコアクション21の認証を取得いたしました。

その後、サードウェーブグループの全ての企業、そこで働く全ての従業員がエコアクション21の活動に参画し、一人一人が環境に配慮した行動が実行できるように、実行委員会を毎月2回定期的に開催し、各事業所の実行委員が中心となり、活動の啓蒙、取り組み事項の設定や見直し、従業員からの質問に対する応対や指導などを行ってまいりました。

また、複数のグループ企業の中に多くの部署があり、事業所が全国に所在していることから、既存の従業員が活動の主旨・目的を改めて確認できるように、そして、新たに入社した従業員に正しく活動を伝えて理解できるように、e-learningによる学習ができるようにしました。

しかしながら、まだまだエコアクション21の活動がグループ内で徹底できている状態ではなく、各事業所の取り組み状況にはばらつきがあると認識しています。今後活動を更に深耕させ、サードウェーブグループにしっかりと根付かせて、その成果を高めていくためには、

- ① グループ全体で実行すべき取り組みを平準化する。
- ② 各事業所で行われている有効な事例を、他の事業所に横展開する。
- ③ 日々の業務の中で、エコ活動がもっと意識できるような仕組みを創る。
- ④ 販売商品の梱包材や緩衝材の削減など、事業活動の中でエコ活動を実現する。
- ⑤ 消費電力の少ないパソコンの販売・推奨を行う。

などが重要な課題であると考えます。

3月11日に発生しました東日本大震災の影響により、電気使用量の大幅な削減が政府から企業及び一般家庭に求められていますが、私たちは、今まで当たり前と思い、感覚が麻痺して無駄と感じなかった行動がないかを一つ一つ検証し、無駄を徹底的に排除していかなければなりません。

上記の課題にグループ全体で取り組み、今後も引き続き地道に活動を推進して、環境方針の実現を目指してまいります。